

生活科学研究室

ハッとする
発見基地

NO.7

キッチンにおける 『油』の存在 '95~'05 10年間の変化と最近のトレンド

「キッチンにおける『油』の存在」調査は、食用油の購入・使用・保存・掃除など食用油に関する事項を包括的に盛り込んだ調査であり、1995年以降継続的に行ってまいりました。2005年度の調査をもって本調査が10年目をむかえるにあたり、この10年間の変化を解析すると同時に最新のトレンドについて考察してみました。

【購入スタイル】—————2

油は低価格・大量買い・長期間使用の人が増加傾向！
油の購入重視ポイントは『価格』がトップ！ ではそれ以外は…？
約60%の人がブランドを重視！『日清オイリオ』は若年層に人気！！

【調理スタイル】—————6

● 炒め物について

『炒め物』は若い世代に支持されている！
良い点は「調理が簡単」なこと！
『炒め物』の調理頻度と『炒め物』の嫌な点。

● 揚げ物について

『揚げ物』は、『家族も喜ぶ』から『好き』！ でも…??
『揚げ物』を作るきっかけは家族のそろった楽しい食事！
揚げ物に使った油を1回で捨てる理由と新しい揚げ物スタイル。

【保存スタイル】—————12

食用油のストック本数が少しずつ減少。
使用中の油は目につくところに！

【掃除・洗い方】—————13

若い世代のレンジ掃除頻度が年々減少！ 汚れた食器も
ふきとらずに洗う。

【油のイメージ】—————14

若い人ほど油は調理器具の一部というイメージ。
でもやっぱり油の良い点は「料理がおいしくなる」こと！

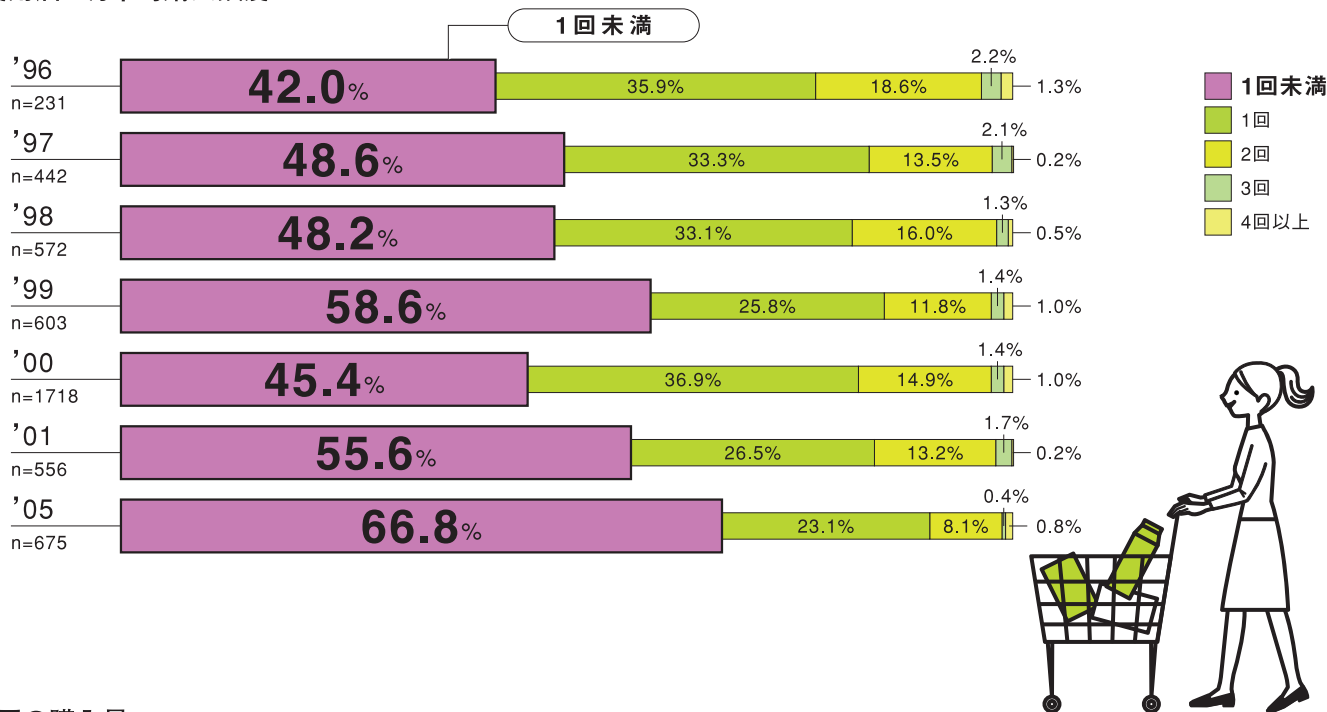


購入スタイル

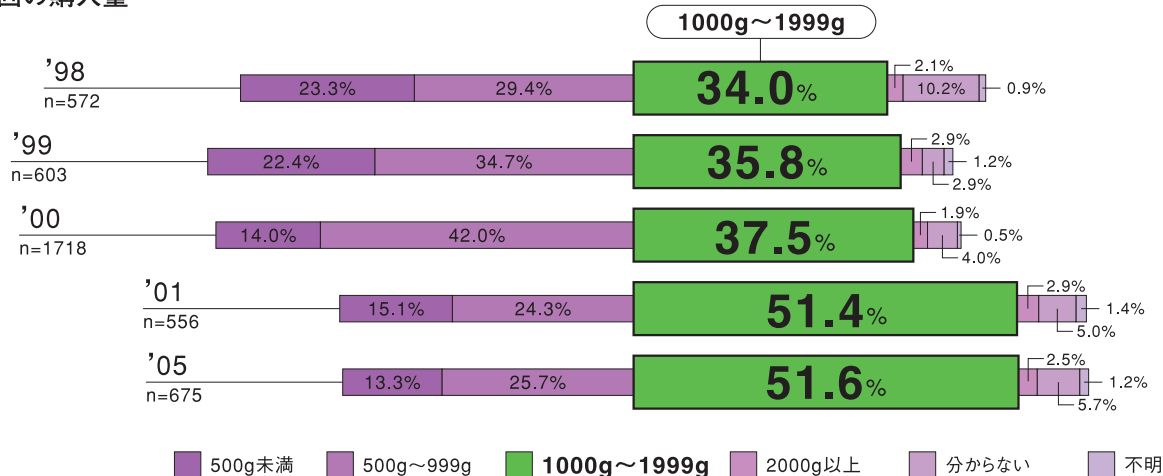
油は低価格・大量買い・長期間使用の人が増加傾向。 その一方で高価格帯も増加傾向!

1ヶ月の購入回数は減少傾向であるが、1回の購入量 (g) は増加傾向である。また、使いきり期間は、『2~3週間』が減少し、『2ヶ月』が増加傾向にある。さらに05年度では『6ヶ月以上』も増加してきている。1回の購入量は、05年度調査において40代の70%以上が1回に「1kg以上」を購入しており、40代から離れるにつれて小容量購入の割合が高くなる。購入金額は低価格化が進む中で、500円以上の購入価格帯が微増であることから、健康オイルなどの高付加価値食用油を使用する人が増加してきたことが推察される。

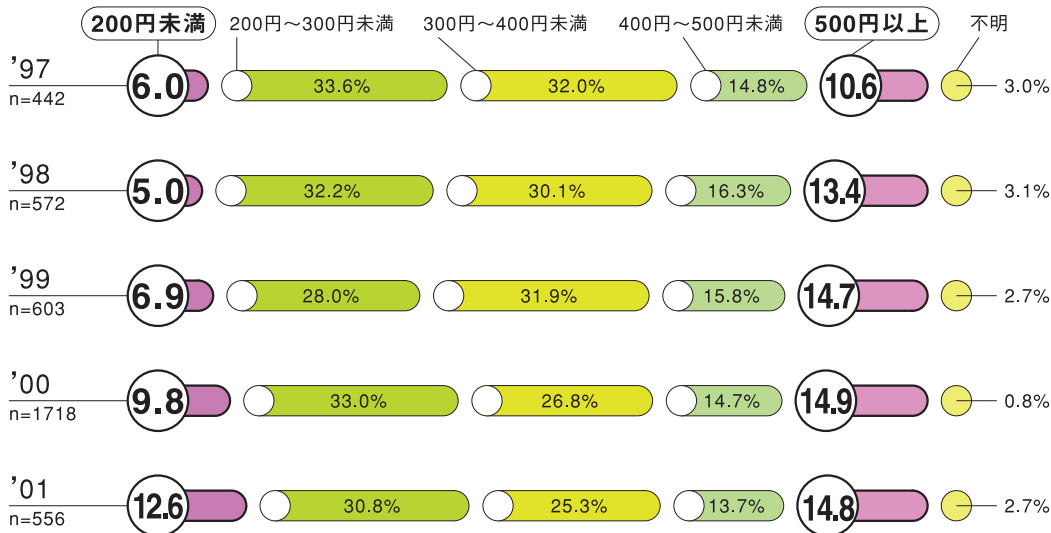
●食用油の月平均購入頻度



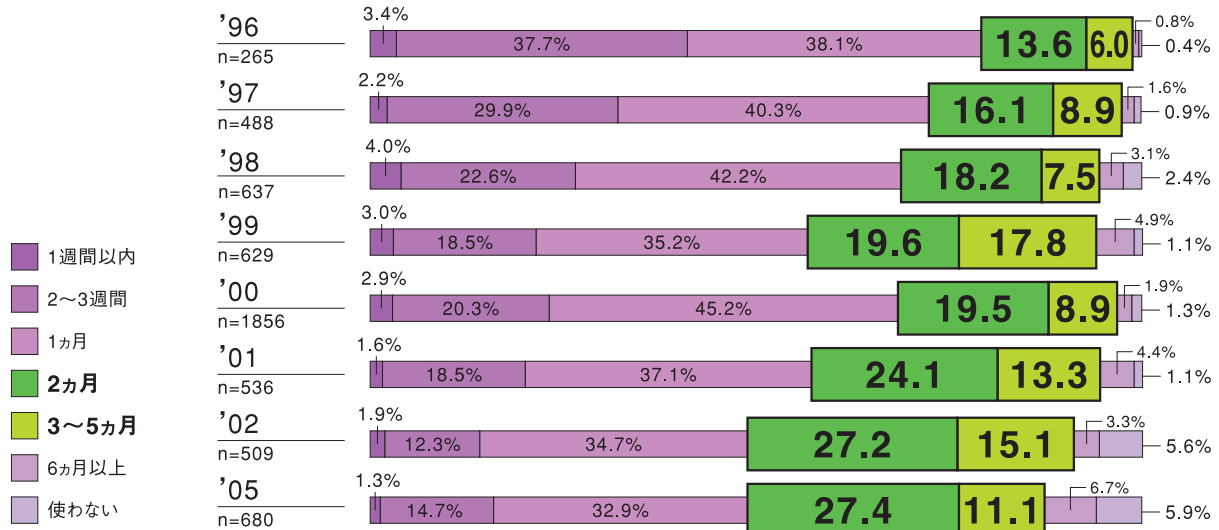
●1回の購入量



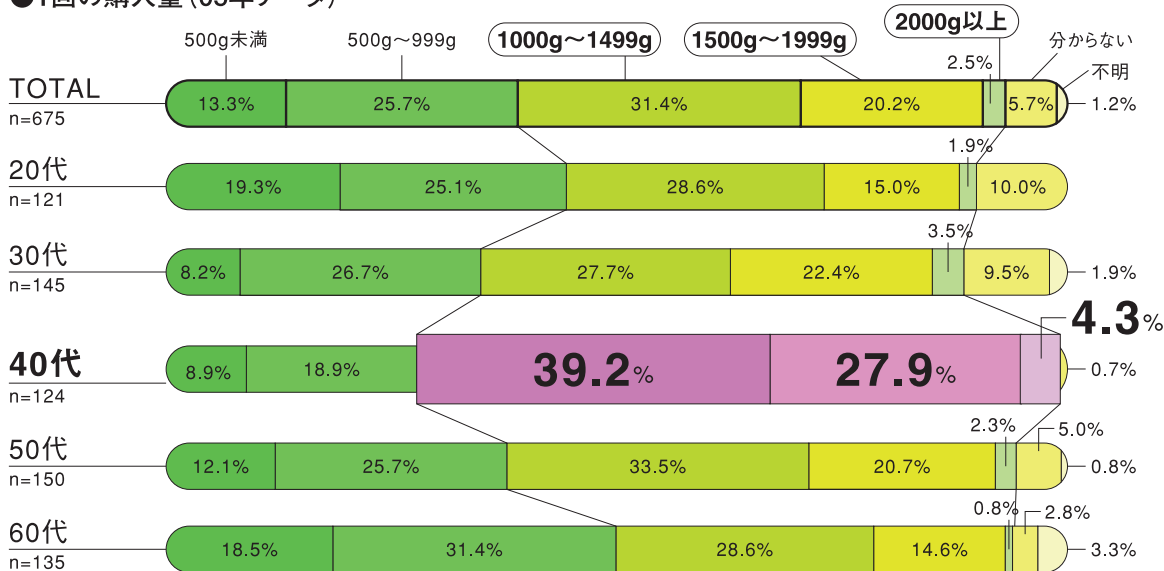
●食用油の購入価格帯



●油の開封後使い切る期間(サラダ油)



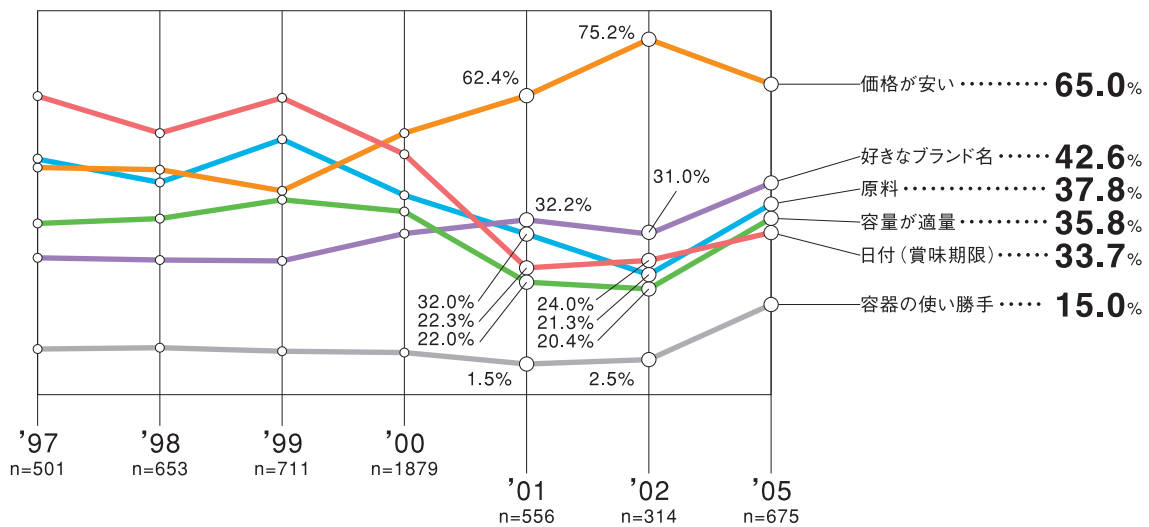
●1回の購入量(05年データ)



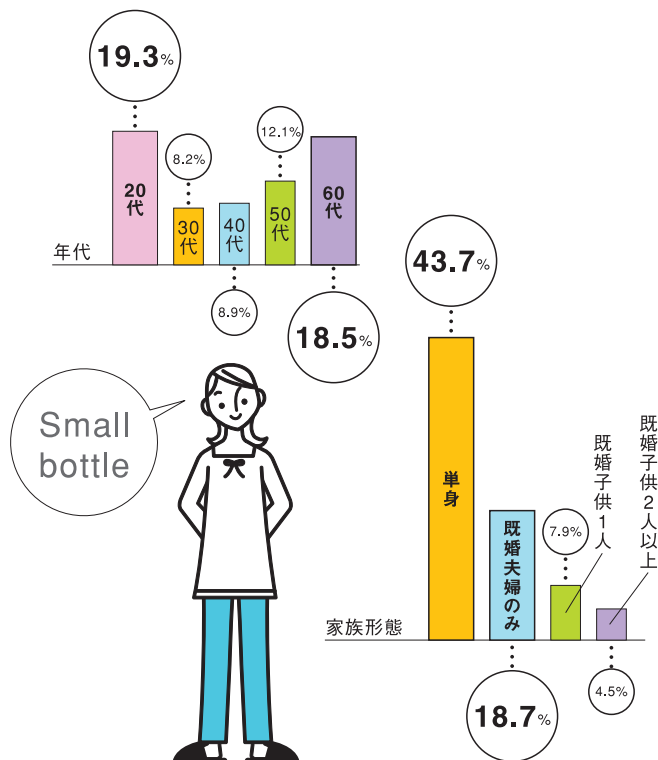
油の購入重視ポイント、2000年度以降『価格』がトップ! ではそれ以外のポイントは…?

購入時に重視するポイントは、2000年度以降『価格』がトップで上昇していたが、05年では『価格』がやや下がり、『日付』、『容量が適量』、『好きなブランド』、『原料』などがやや増加傾向であった。05年度のデータで年代別に見ると、高年齢層に『価格』以外に、『ブランド名』『原料』『日付・賞味期限』『特保マーク』などを重視する傾向がある。また、若年層では、『容量が適量』という点が重視されている。そこで、500g未満の少量購入者に注目すると、年代別では20代と60代、家族構成別では単身世帯、ついで夫婦2人世帯が多い。今後ますます少子高齢化が進むことで、小容量の油がより重視される可能性もある。

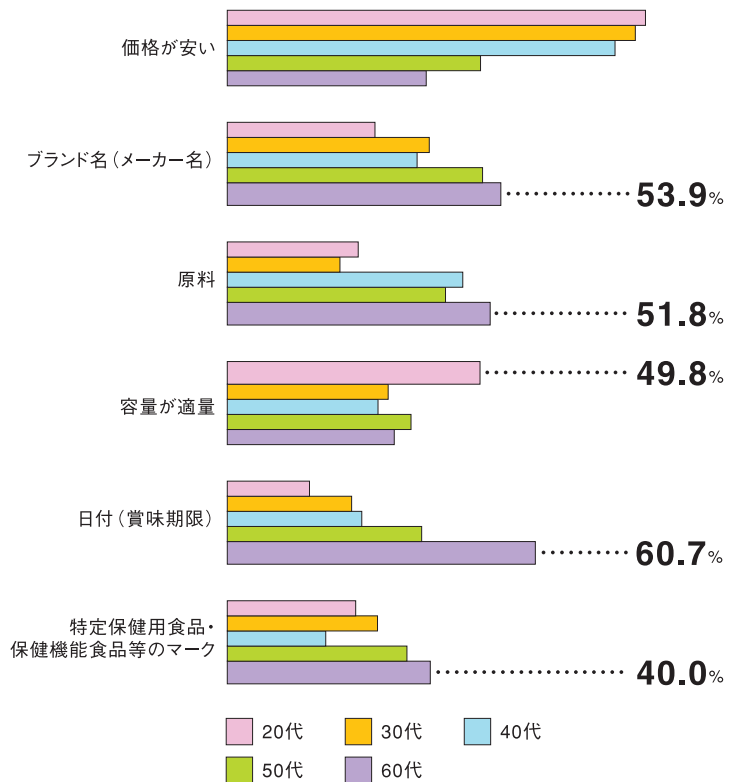
●食用油購入時のポイント



●1回の購入量 [500g未満] (05年度データ)



●食用油購入時のポイント (05年度データ)

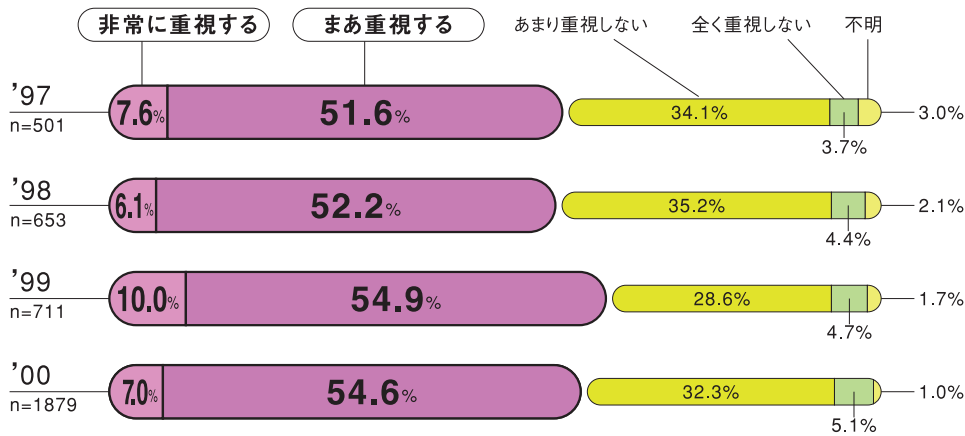


約60%の人がブランドを重視!

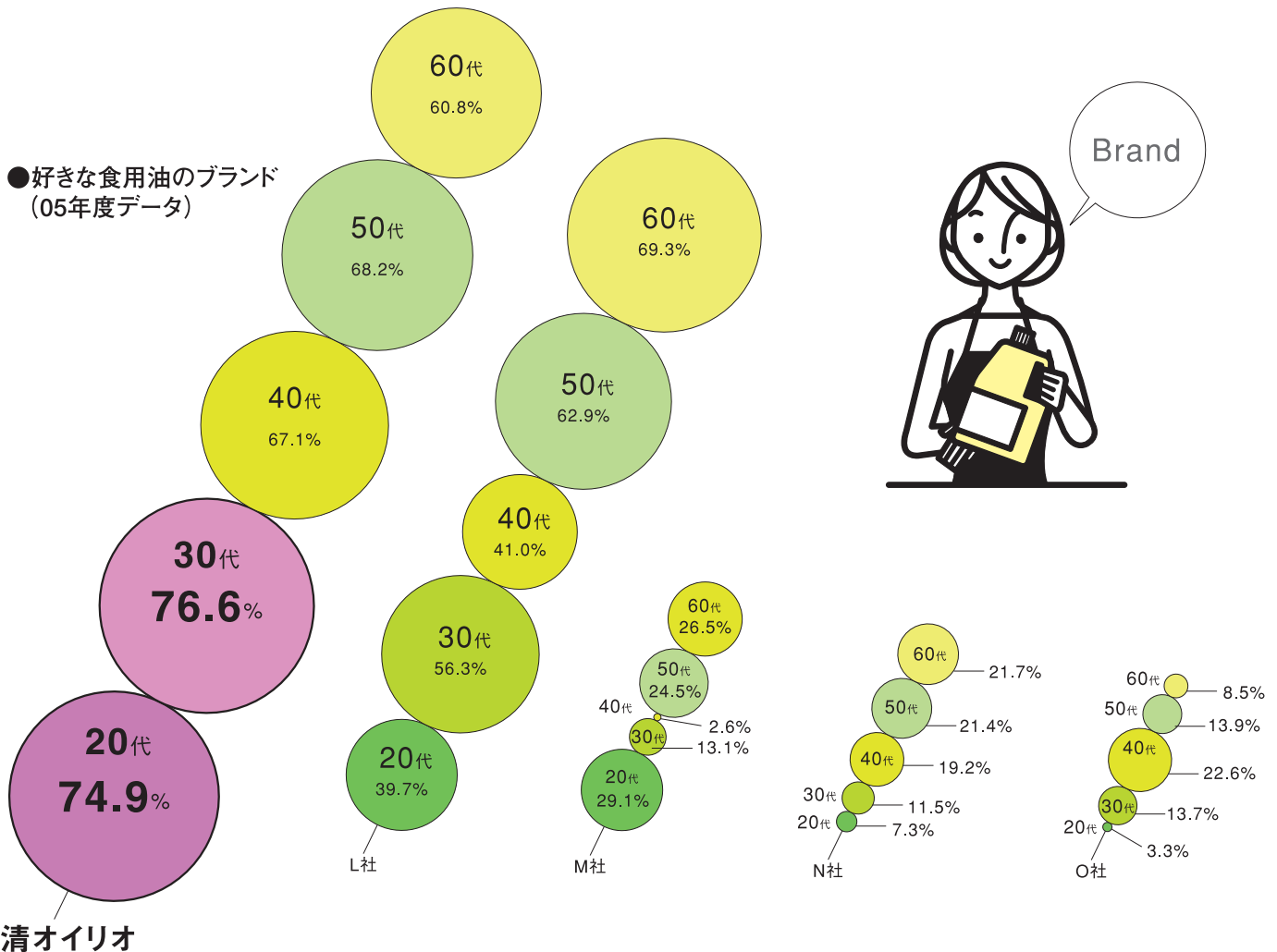
『日清オイリオ』は若い世代に人気がある!!

食用油のブランドを重視するかどうかについては、97年度から2000年度まで大きな変化はなく、継続して約60%の人が「重視する」と答えている。05年度のデータでは、『日清オイリオ』ブランドは他ブランドに比べて高い支持を得ており、特に若年層で人気が高い。

●食用油購入時のブランド重視度



●好きな食用油のブランド (05年度データ)



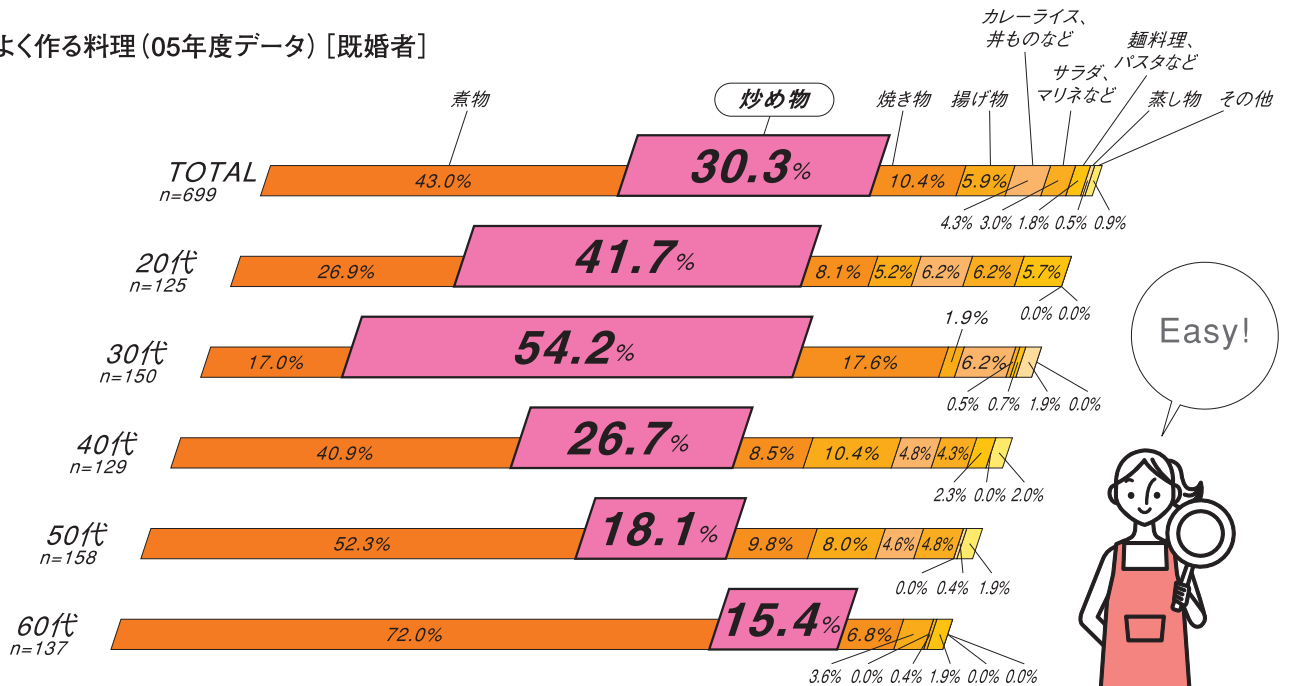
調理スタイル

『炒め物』の良い点は『調理が簡単』なこと! 特に若い世代に支持されている。

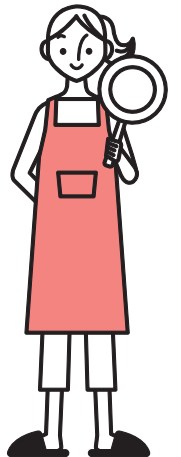
05年度のデータでよく作るメニューランキングは、1位『煮物』2位『炒め物』3位『焼きもの』。特に『炒め物』は20代、30代で支持されており、若い世代ほど『ほぼ毎日』と答えた人が多い。また、『炒め物』の良い点として、全年代を通して『調理が簡単だから』『いろいろな野菜・食材がとれるから』が挙げられている。キッチンに立つ時間が短く、食事作り以外のことに時間を有効活用しようとする若者の姿が見えてくる。

●炒め物について

●最もよく作る料理 (05年度データ) [既婚者]



Easy!



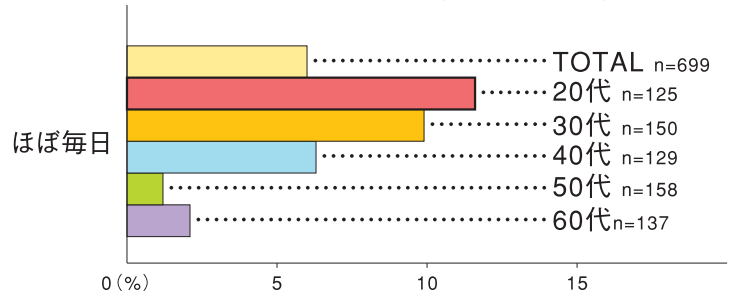
●炒め物の良い点 (05年度データ)

	1位 (316)	2位 (281)	3位 (193)
TOTAL (n=1539)	調理時間が早い	調理が簡単	色々な野菜がとれる
20代 (n=256)	調理が簡単	調理時間が早い	色々な食材がとれる
30代 (n=293)	調理が簡単	調理時間が早い	色々な野菜がとれる
40代 (n=293)	調理時間が早い	色々な野菜がとれる	調理が簡単
50代 (n=381)	調理時間が早い	調理が簡単	色々な野菜がとれる
60代 (n=315)	調理時間が早い	調理が簡単	色々な野菜がとれる

調理が簡単
調理時間が早い
色々な野菜がとれる
色々な食材がとれる



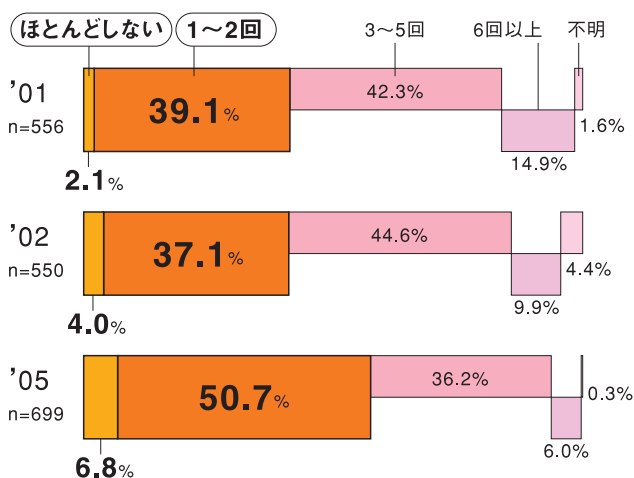
●1週間の夕食炒め物頻度 (05年度データ)



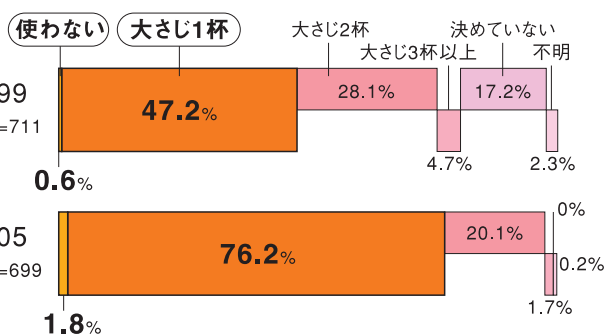
『炒め物』の調理頻度は減少傾向。『炒め物』の嫌な点は、『油の摂りすぎ』『油ハネ』『ワンパターンになる』！

炒め物の調理頻度が減少傾向にある。また、調理時の油使用量も減少傾向である。炒め物の嫌な理由としては、比較的高い年代で『油の摂り過ぎ』が気にされており、高い年代ほど【カロリー摂取】に気を使う姿勢がうかがえる。また、『油はね』や『レンジの汚れ』などがすべての年代で共通の悩み事となっており、【油汚れ】も炒め物減少の大きな要因となっている。一方で、子供2人以上の家庭では、『汚れ』や『油の摂りすぎ』よりも、『冷めると味が落ちる』や『ワンパターンになる』といった不満が多く、家族が多いほど【豊かな食卓】を演出したいという気持ちが見える。

●1週間の夕食炒め物頻度



●炒め物での食用油使用量



●炒め物の悪い点 (05年度データ)



[家族形態]



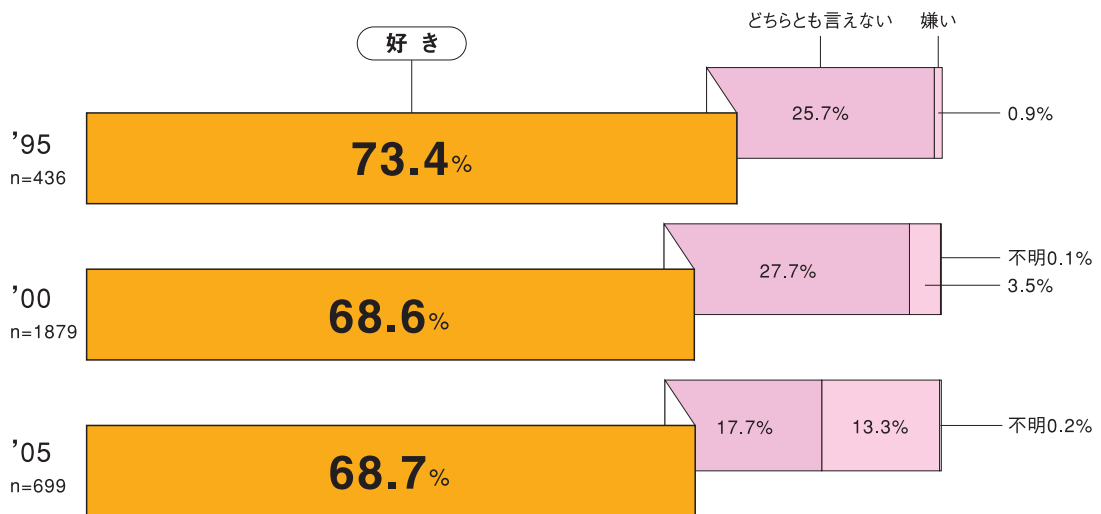
片付けや汚れについての不満 カロリーや栄養面の不満 調理品についての不満

『揚げ物』は、『ボリュームもでる』し 『家族も喜ぶ』から『好き』! でも…??

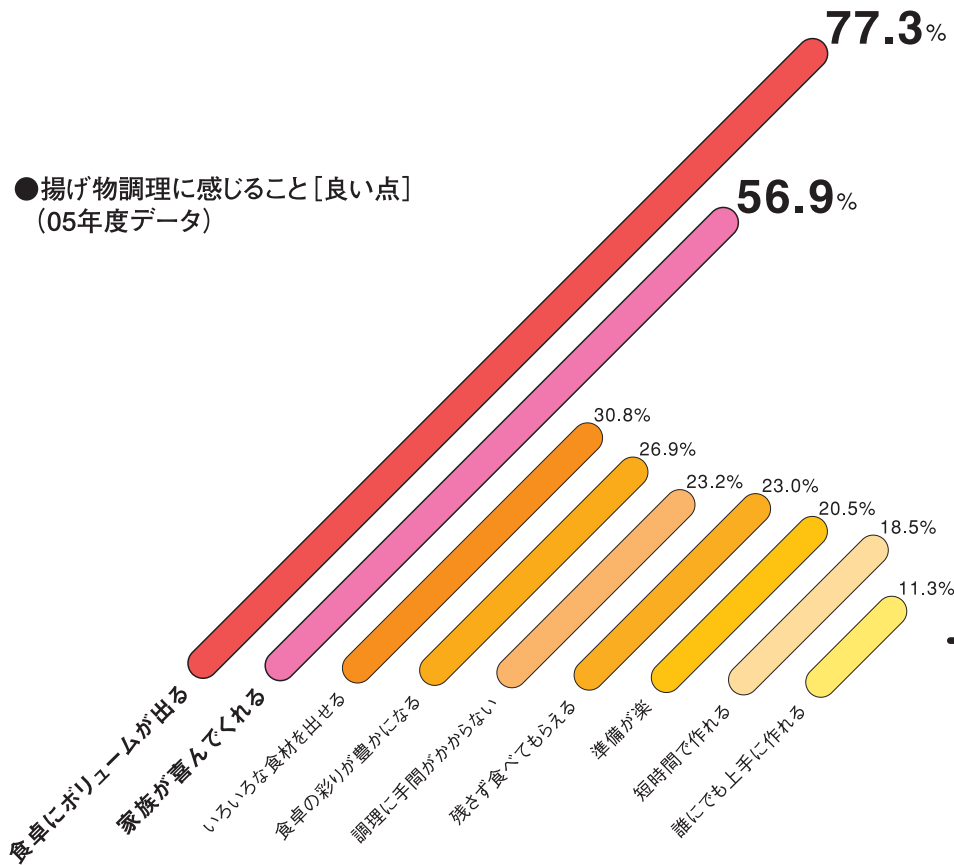
●揚げ物について

過去10年間、70%近くの人が揚げ物を食べることを『好き』と答えている。また、揚げ物調理をすることについても『ボリュームが出る』『家族が喜んでくれる』といった意見が多い。一方で、揚げ物の調理頻度、揚げ物で使用する油の量ともに減少傾向である。『油の処理が大変』『調理器具の片付けが大変』『レンジ周りが汚れる』といった意見が多くあることから、油調理の後片付けが主婦にとって非常に大きな悩みの種であることがうかがえる。また、揚げ物を食べるのが『嫌い』という人が増加しており、『太りやすい』が大きな理由として考えられる。

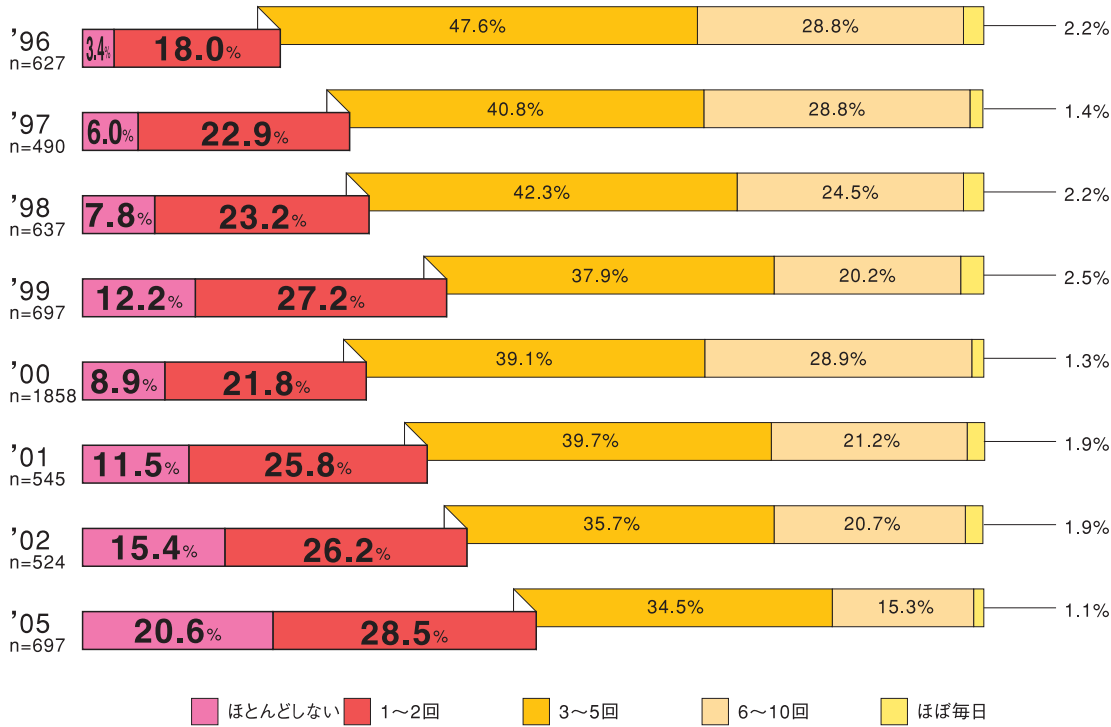
●揚げ物を食べることの好き嫌い



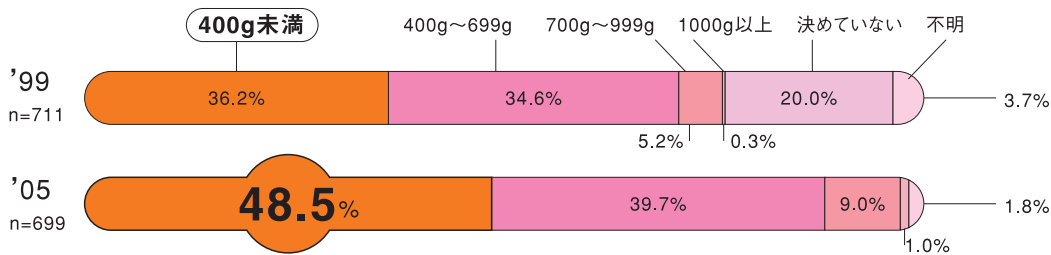
●揚げ物調理に感じること[良い点] (05年度データ)



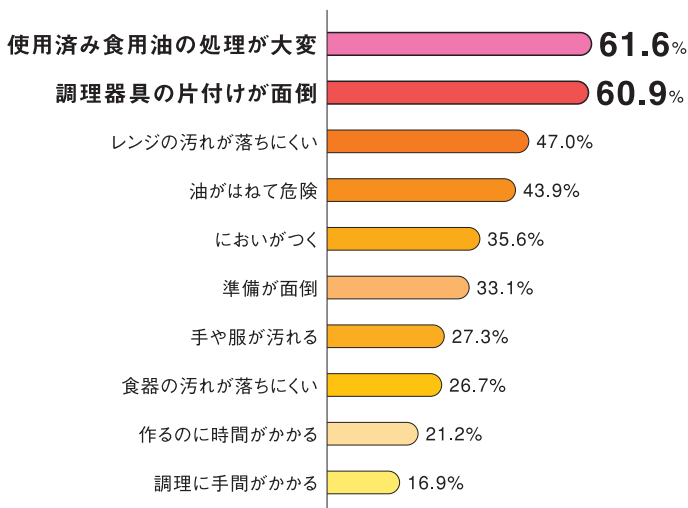
●揚げ物の月調理頻度



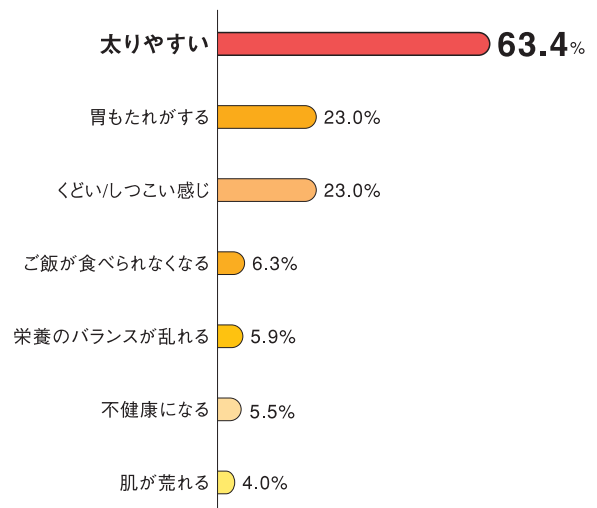
●揚げ物での食用油使用量



●揚げ物調理に感じるこゝろ[悪い点]
(05年度データ)



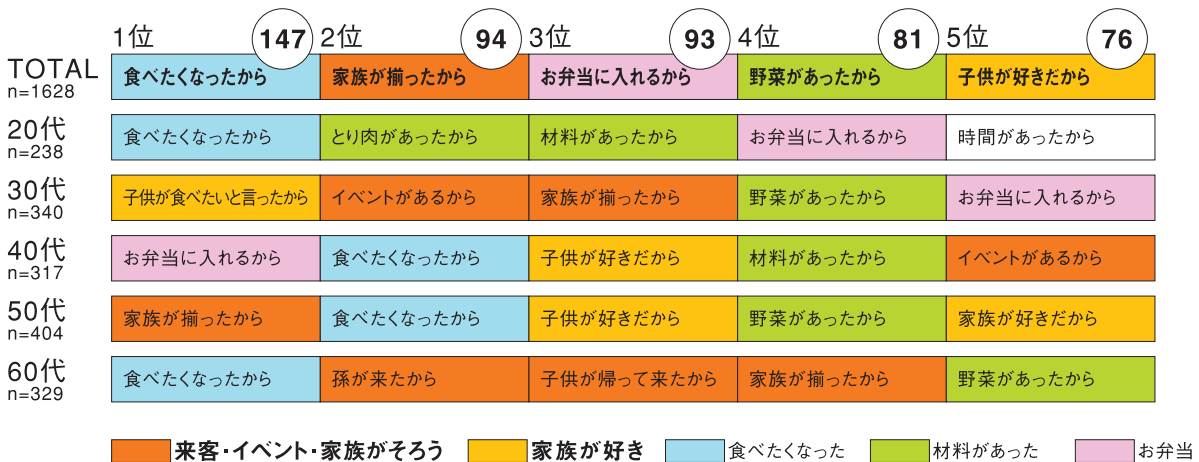
●揚げ物を食べるときに感じるこゝろ[悪い点]
(05年度データ)



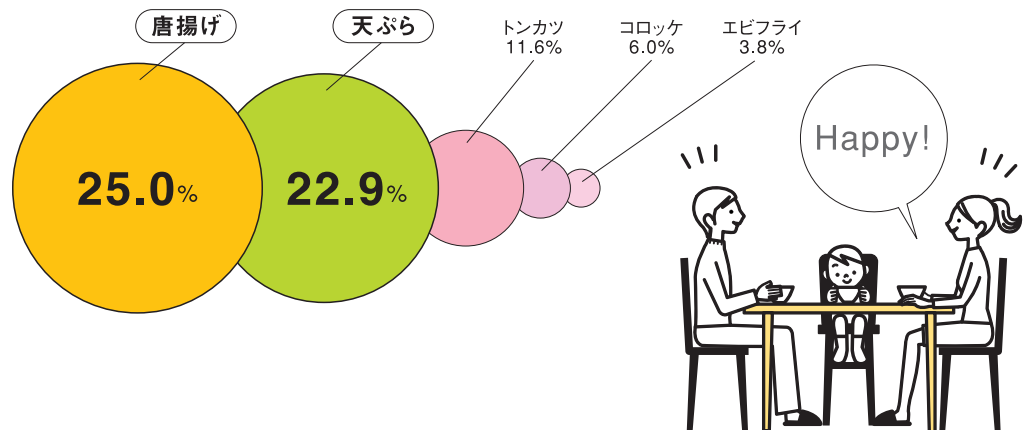
『揚げ物』は『片付けが大変』『太りやすい』などデメリットが多いが、作るきっかけは家族のそろった楽しい食事をするとき!

揚げ物をするきっかけのトップは『食べたくなったから』。それ以外で目立つきっかけは『家族がそろう』や『イベント』、『家族が好き』などがあり、大勢で楽しく食べる場面が想像できる。一方で『材料があったから』というように、揚げ物をするきっかけと食材が強く結びついていると考えられるデータもある。揚げ物をするときのきっかけとメニューを訊ねたところ、メニューのトップは「唐揚げ」で、子供が喜ぶメニューであることがうかがえる。一方、2位の「天ぷら」は、「材料・野菜があった」や「麺類を作った」など材料の都合がきっかけとなっているようだ。

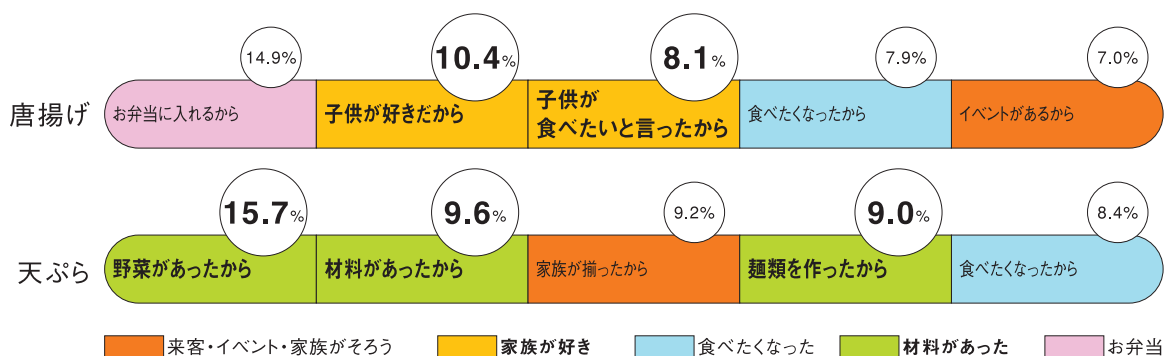
●揚げ物をするきっかけ (05年度データ)



●思いついた揚げ物メニュー (05年度データ)



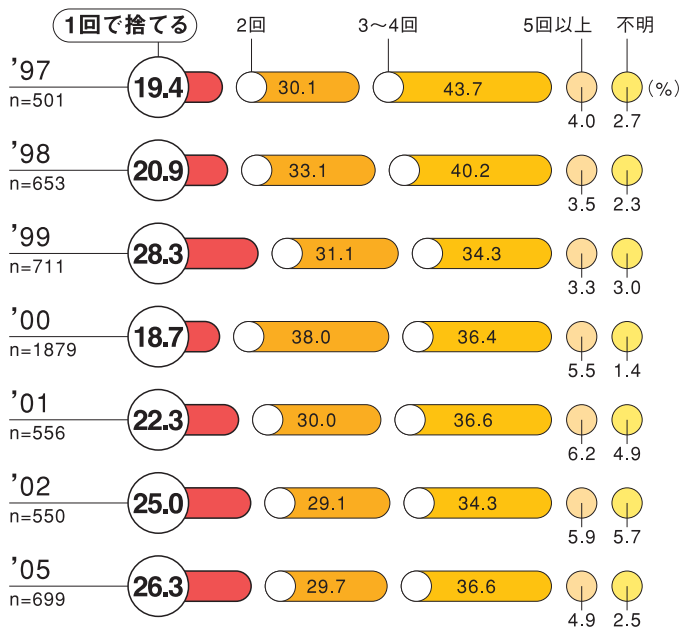
●揚げ物メニュー別調理のきっかけ (05年度データ)



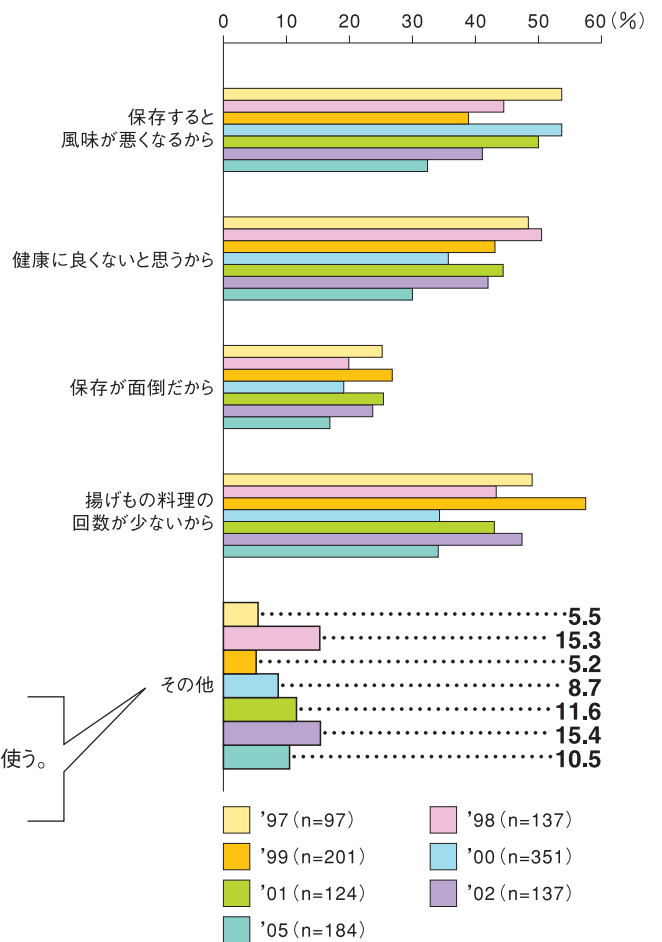
揚げ物に使った油を1回で捨てる理由と フライパンを使った新しい揚げ物のスタイル。

揚げ物に使用した油を『1回で捨てる』人が微増傾向にある。1回で捨てる理由は、「風味が悪くなるから」「健康に良くない」「保存が面倒」「揚げ物の回数が少ない」などがあるが、いずれも減少傾向にある。一方で「その他」がやや増加傾向にあり、その中で「保存するほど残らない」「残りを炒め物に使う」といった、揚げ物での油の使用量が少なくなっていることを思わせる意見があった。そんな中、少なめの油でフライパンを使用して揚げ物をする人が若い世代で増加傾向にあり、今後の揚げ物の主流の調理スタイルとなる可能性がある。

●揚げ物で同じ油を使う回数



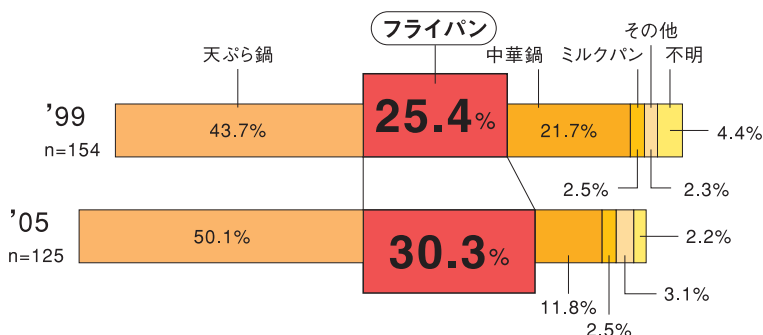
●揚げ物の油を1回で捨てる理由



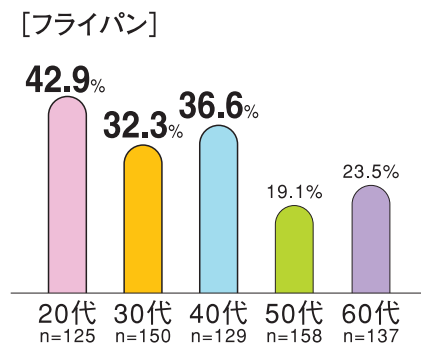
「その他」の回答
 ●捨てるというか、炒め物に使う。
 ●保存するほど残らない。



●揚げ物で使用する調理器具



●揚げ物で使用する調理器具 (05年度データ)

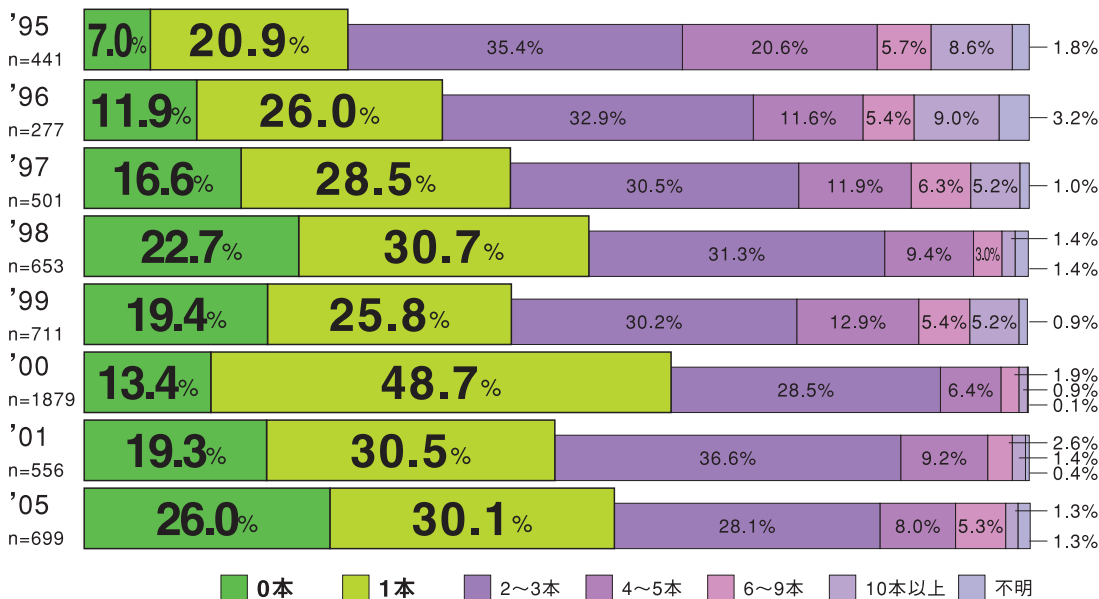


保存スタイル

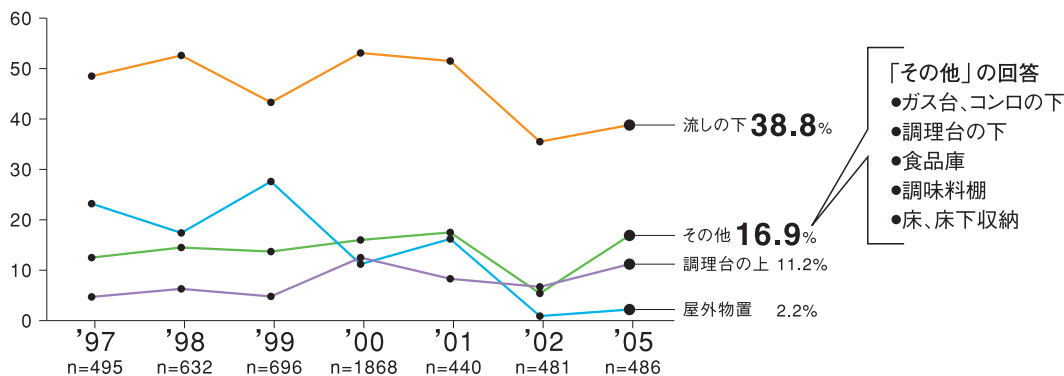
食用油のストック本数が少しずつ減少。 一方、使用中食用油の保存場所は目に付くところに!

家庭でストックしている未開封食用油の本数は、少しずつ『0本』『1本』が増加し、05年度では0~3本が一般的。油は買い置きするものではなくってきている様子うかがえる。保存場所では、約半数だった『流しの下』がやや減少傾向にあり、20%以上であった『屋外物置』は、05年では2%まで減少している。使用中の油の保存場所も大きな変化はないが、『流しの下』が減少し、『調理台の上』が増加傾向にあり、最近では油は調理で使いやすく目に付く場所に置いておくことも増えてきているようである。

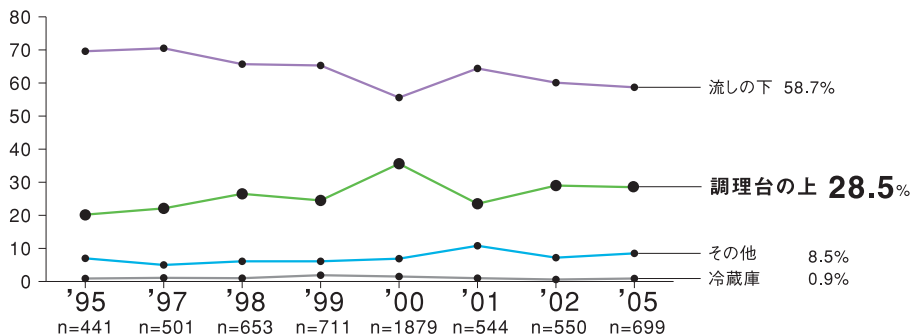
●家庭内にある未開封食用油の本数



●未開封食用油の保存場所



●使用中食用油の保存場所

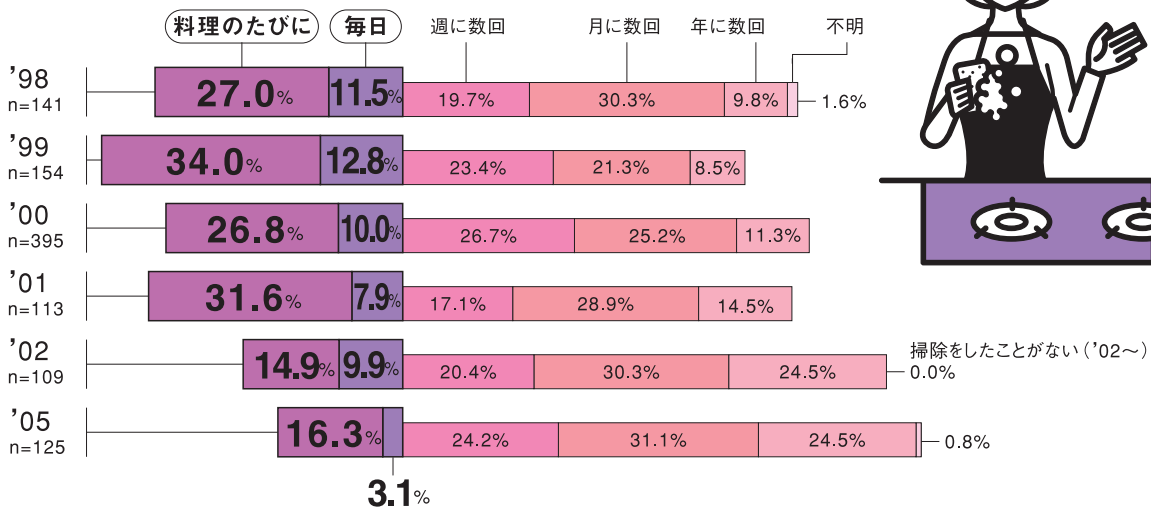


若い世代のレンジ掃除頻度が年々減少。 油で汚れた食器でもふき取らないで 洗う人が約半数!

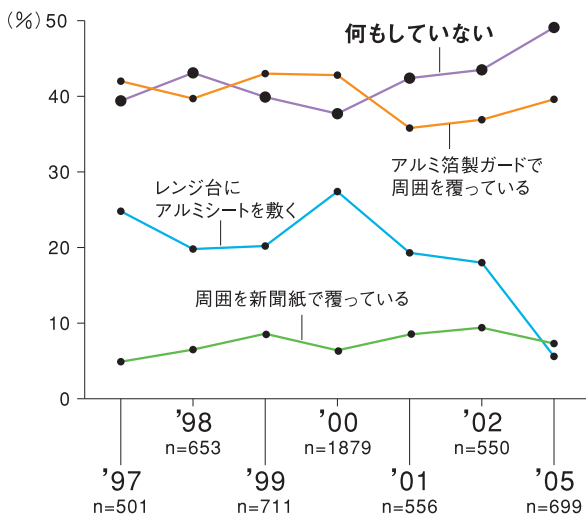
若い世代でレンジの掃除頻度が減少している。全年代を通じてみても、レンジ台の汚れの予防を『何もしない』人が増加傾向にある。さらに、若い世代ほど油で汚れた食器や調理器具をふき取らずにそのまま洗う人が多い。揚げ物や炒め物で油汚れに不満を感じている人が多いことから、汚れ自体は非常に気になっているが掃除は面倒くさいという気持ちのあることがうかがえる。油汚れの軽減に関するニーズはますます高くなっていく可能性がある。



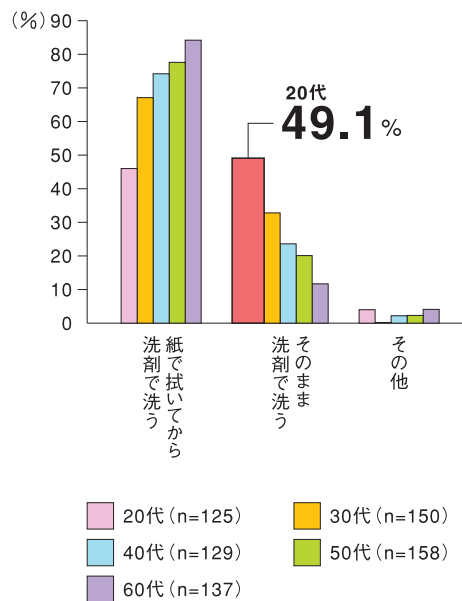
●レンジの掃除頻度 [20代]



●レンジ台の油汚れの予防方法



●油料理で汚れた食器や鍋の洗い方 (05年度データ)

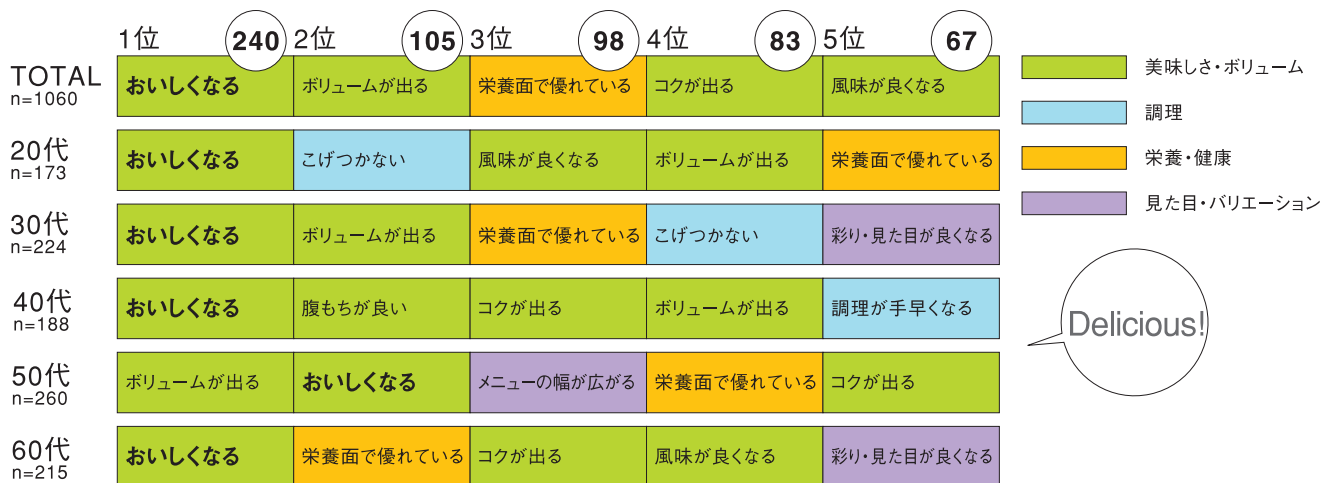


油のイメージ

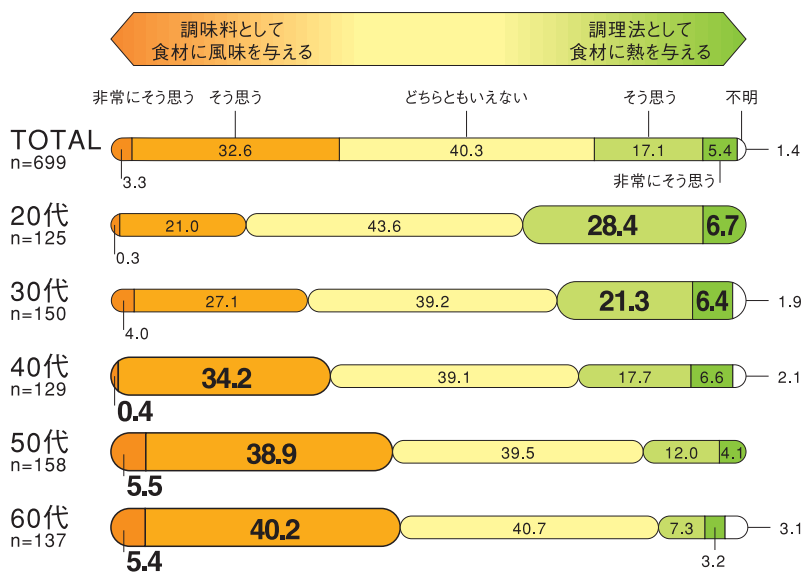
若い人ほど油は調理器具の一部というイメージ。でもやっぱり油のよい点は『料理がおいしくなる』ことが一番！

「料理に油を使うと○○○。(良い点)」と聞いたとき、若い世代ほど、「こげつかない」「調理が手早くなる」といった、調理機能に関するメリットが上位に見られる。また、油のイメージとしても、若い世代では、「食材に熱を与える」との回答が多い。一方、「栄養面」や「見た目・メニューの幅」なども各年代で油を使用したときのメリットとしてあげられている。とくに高い年齢層でやや重視されている傾向がある。しかし、全年代を通して上位に挙げられた油のよい点は【料理がおいしくなる】ことであった！

●油の良い点 (05年度データ)



●油のイメージ「食材に風味を与える」or「食材に熱を与える」(05年度データ)



生活科学研究室 ショートレポート No.7 キッチンにおける『油』の存在 '95~'05

年次	調査実施時期	対象者範囲
1995年	1995年9月	「日清ふれあいの会」に入室している主婦モニター
1996年	1996年9月	東京家政大学(埼玉県狭山市)、及び福山女子大学(愛知県名古屋市)に在籍する女子大生の母親
1997年	1997年10月	全国の20~60代の既婚女性
1998年	1998年6月	全国の20~60代の女性
1999年	1999年7~8月	全国の20~60代の女性
2000年	2000年10月	全国の20~60代の女性
2001年	2001年11~12月	全国の20~60代の女性
2002年	2002年10月	全国の20~60代の女性
2005年	2005年9月	全国の20~60代の女性

年次	調査方法	回収数	回収率	使用データ
1995年	郵送調査	441s	96.3%	年代構成の補正を行っていない
1996年	郵送調査	277s	62.7%	
1997年	郵送調査	510s	77.7%	調査回答者の年代構成を、日本の実年代構成にあわせるために母集団拡大集計を実施。レポートに使用するデータは母集団拡大集計後のデータを使用。
1998年	郵送調査	653s	85.2%	
1999年	郵送調査	711s	92.2%	
2000年	電話調査及びWeb調査	1879s	-	
2001年	郵送調査	556s	72.9%	
2002年	郵送調査	550s	88.6%	
2005年	郵送調査	699s	88.1%	